

### 231 心プールシンチグラムによる三尖弁逆流量の定量的評価

清水光春、中川富夫、守都常晴、河野良寛、竹田芳弘、平木祥夫（岡山大・放）、永谷伊佐雄（同・中放）、岡田富朗、荒木一博、寺本 滋（同・二外）、妹尾嘉昌（同・心血外）

僧帽弁閉鎖不全症を合併しない三尖弁閉鎖不全症（以下TR群）15例に対し、 $^{99m}\text{Tc}$  標識赤血球による平衡時マルチゲート心プールシンチグラムを行い、10例の正常対照群との比較から安静時と運動負荷時の三尖弁逆流量の定量的評価を試みた。僧帽弁置換術を行った例では術前と術後での比較も行った。TR群において安静時と運動負荷時の三尖弁逆流量には変化がみられなかったが、逆流分画は運動負荷時に増加する傾向がみられた。僧帽弁置換術を行った例では、三尖弁逆流量、逆流分画とも術後は術前に比して低下し、改善が認められた。

### 232 $^{81}\text{Kr}$ 持続注入法および $^{99m}\text{Tc}$ 平衡時法を併用した大動脈弁閉鎖不全症の弁逆流量の評価

山下三朗 木下信一郎 井出雅生 村松俊裕 鈴木哲男 土肥 豊（埼玉医科大学2内）西村克之 宮前達也（同放）

大動脈弁閉鎖不全症（AR）において左室一回拍出量（LVS V）- 右室一回拍出量（RVSV）は弁逆流量を表している。半幾何学的カウント法（SM）によれば、心室容積（V）はその総カウント（Ct）同最大カウント（Cm）、Cm部の容器の深さ（L）、pixelsize（d）が分かると、 $V = (Ct/Cm) \times L \times d^2$  で与えられる。前回の本学会で我々は $^{81}\text{Kr}$ 持続注入法を用いSM法を適用した右室容積測定法を報告したが、それを用いRVSVを求め、さらに $^{99m}\text{Tc}$ 平衡時法データにSM法を適用し、LVS Vを算出した。両者の差を逆流量としカラードブロー法による逆流度と対比し良好な対応が得られた。